

〈研究論文〉

日中両語の「食」に関する諸表現

林 翠芳

要 旨

中国語に古くから伝わる諺に、「民以食为天」という言葉がある。食えることが生きる上で最も重要なことだ、という意味である。現代社会では、「食べる」ことを通して人間関係を保つのによく用いられる一つ的手段でもある。その土地の気風を表わす言葉に、日本は昔から東京は「履き倒れ」、京都は「着倒れ」、そして大阪は「食い倒れ」がある。一方、中国では「穿在上海、吃在广州」といい、また、三つの「州 zhōu」の韻を踏んで、「吃在广州、住在苏州、死在柳州」という言い方もある。中国も日本も食文化が非常に発達しており、こうして改めて「食」に関する諸表現を見てみると、その豊富さに驚くばかりである。語の基本義用法、派生義用法や慣用表現、そしてことわざなどさまざまな表現が見られる。本稿では、日中両言語において「食」を用いられている表現、特に、動詞「吃」（中国語）と「食う」（日本語）に関する諸表現について取り上げている。

【キーワード】

語構成、基本義、派生義、慣用表現、ことわざ

0. はじめに

中国語に古くから伝わる諺に、「民以食为天（民以食為天）」という言葉がある。「民、食を以って天と為（成）す」と読む。食えることが生きる上で最も重要なことだ、という意味である。農耕文化を背景に、人々にとっては「食」、つまり食えることは最も重要なことであった。現代社会においても、「食べる」ことは生きていくうえで必要不可欠なことであり、基本的な生活を維持する一つの形式である。また、現代社会では、「食べる」ことを通して人間関係を保つのによく用いられる一つ的手段でもある。中国語にはまた「一桌酒席解冤仇」という諺があり、「（1卓の）酒席は恨みを解く」という意味である。人間関係を保つのに食文化は人々の社会生活のさまざまな面と関係しているといえよう。最近、ある製薬会社の広告に、「食」は“人”生を“良”くする、

という文句があった。漢字を上手くとらえた宣伝文句であることに感心したのだった。

食事は料理を口で食べるだけでなく、五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を全てフル稼働させて味わっていると言えるだろう。日本料理は目で楽しむ料理、中国料理は口で味わう料理、といわれているほど、どちらも食文化が発達していて、「食」に関連する言葉や表現も非常に多い。本稿では、日中両言語において「食」を用いられている表現、特に、動詞「吃」（中国語）と「食う」（日本語）に関する諸表現について取り上げてみたいと思う。

1. 「食」に関する表現

中国語と日本語のどちらも「食」の語構成力が強く、さまざまな語を構成している。語の語義も「食べる」意味にとどまらず、比喩的な表現も見られる。

1. 1 中国語「食」の語構成力

「食」の主な意味（『日中・中日辞書引き』ソフトによる）：

- (1) 食べる、食う。「儿童应多食水果／兒童は果物を多く食べるべきだ」
- (2) 食事（する）、ご飯（を食べる）。「废寝忘食／寝食を忘れる」
- (3) 食べ物、食料品。「素食／肉類のない食べ物、精進物」
- (4) 食（儿）動物の食べ物、えさ、飼料。「给鸡喂食／ニワトリにえさをやる」
- (5) 食べられる、食用の食品に供しうる。「食油」
- (6) 日食・月食の現象。

(1)～(5)の語義項目はいずれも食べる行為、或いは食べ物と関係する意味である。また(1)は動詞として使われているほか、(2)～(5)は名詞として使われている。(6)の「日食・月食」は食べる行為、或いは食べ物と関係ない意味として用いられている。天体に関する語にはほかに「食既、食相、食甚、环食、全食」等がある。

また、上記例のほかに、さらに以下のような熟語が挙げられる。

肉食、面食、零食、主食、副食、白食、扁食、捕食、蚕食、茶食、存食、耳食、飯食、寒食、环食、伙食、积食、酒食、绝食、克食、冷食、粮食、流食、民食、偏食、乞食、寝食、全食、软食、膳食、伤食、甜食、停食、吞食、吸食、野食、衣食、饮食、蒸食、猪食

食道、食管、食盒、食积、食既、食客、食粮、食量、食禄、食品、食甚、食

譜、食堂、食糖、食物、食性、食盐、食用、食欲、食相、食言、食指

「～食」と「食～」の両方の構成例が見られる。中には「食糧」「糧食」のような形態素逆転語も見られる。「食糧」と「糧食」はどちらも日本語の食糧の意味だが、「食糧」は比喩的に用いられることが多く、「精神食糧／心の糧」のように、抽象的な使い方として用いられることが多い。ほかに「积食」「食积」の例もあり、どちらも「消化不良」の意味である。「消化／良、不良」の意味を表すものに「存食、克食、伤食、停食」等の語もある。

また、「耳食／人の言うことを真に受ける、人の話をうのみにする」「食言／食言する、約束をたがえる、うそをつく」のような派生的な使い方も見られる。

中国語には「食」が用いられた四字熟語・ことわざも多く存在する。たとえば：「蚕食鯨吞、饥不择食、嗟来之食、节衣缩食、灭此朝食、弱肉强食、食而不化、食古不化、食肉寝皮、食言而肥、衣食住行、困噎废食、自食其果、自食其力、自食其言、饱食终日、饿虎扑食、发愤忘食、废寝忘食、丰衣足食、解衣推食、宵衣旰食、钟鸣鼎食」などが挙げられる。

「饥不择食」は日本語のことわざ「食なき者は職を選ばず」と似たような表現である。以上挙げたように、中国語の「食」はその本来の意味で動詞としての使い方、名詞としての使い方のほか、派生的な使い方や比喩的な使い方もあることが分かる。

1. 2 日本語「食」の語構成力

『大辞泉』（インターネット版）では、「食」の意味を

- (1) ものを食べること、食事。「食が細い」
- (2) たべもの、食物。「食に飢える」
- (3) (接尾語) 食事の回数を数えるのに用いる。「一日三食」

と挙げている。

(1)と(2)の用法は中国語にもあるが、(3)の接尾語としての用法は、中国語の「食」にはなく、同様の表現として「一日三餐」が挙げられる。

中国語の「餐」には(1)食事をする、食べる。「聚餐、野餐、饱餐一顿」(2)食事、食物、料理。「早餐、午餐、中餐、西餐」(3)〔量詞〕食事の回数を数える、の三つの意味があり、日本の「食」の使い方と似通っている。

日本語の「食」には以下のような熟語が挙げられ、語の構成力がかなり強いことが分かる。

悪食、甘食、衣食、飲食、厭食、皆既食、金環食、月食、日食、会食、海食、
外食、火食、河食、過食、間食、官食、寒食、寄食、給食、玉食、軽食、欠
食、血食、減食、穀食、個食、孤食、混食、菜食、座食、雑食、三食、蚕食、
試食、耳食、侍食、自然食、宿食、熟食、主食、酒食、小食、少食、常食、
植食、侵食、浸食、寝食、水食、炊食、生食、摂食、節食、絶食、草食、素
食、粗食、大食、耐食、貪食、昼食、朝食、定食、偷食、徒食、貪食、肉食、
陪食、碧食、偏食、墨食、補食、暮食、夜食、零食
食堂、食肉、食悦、食塩、食害、食間、食気、食言、食後、食材、食指、食
思、食事、食餌、食時、食傷、食尽、食人、食酢、食性、食青、食前、食膳、
食草、食卓、食台、食堂、食道、食肉、食年、食費、食品、食物、食分、食
紅、食偏、食胞、食封、食棒、食味、食油、食用、食養、食欲、食慾、食料、
食糧、食録、食貨、食客、食頃、食鶏、食券、食刻

中国語との同形語として「月食、日食、衣食、飲食、寒食、耳食、主食、
酒食、食堂、絶食、素食、肉食、零食」「食塩、食言、食指、食性、食道、食
品、食物、食用、食欲」等の例が挙げられる。また、「肉食—食肉」「草食—
食草」「偏食—食偏」のような形態素逆転語も見られるが、「偏食・食偏」の
場合、「偏食：好き嫌いが激しく、特定の食品だけを食すること」「食偏：漢
字の偏の一」のように、形態素が逆転すると、まったく違う意味として用い
られている。

「食前、食後」はそれぞれ中国語では「飯前、饭后」といい、日本語の「食」
に対して中国語では「食」を使ったり、「餐」「飯」を使ったりしている。

2. 動詞「吃」と「食う」

2. 1 中国語の「吃」

現代中国語では「食」は書き言葉で、動詞と名詞の両方の用法があるが、
「吃」は話し言葉で、主に動詞として用いられる。また、「食」の(1)の動詞
として用いられる場合、「儿童应多食水果。→儿童应多吃水果。」と言い替
えることが可能だが、他の用法については言い替えることができない。「吃」で
構成されている熟語については基本的に「食」に言い替えることができない。

2. 1. 1 「吃」の意味

「吃」の主な意味(『日中・中日辞書引き』ソフト)：

- (1) 食べる、食う、生活する。「吃晚饭/夕食を食べる」

(a) 食べる場所・道具・方法などを目的語にとることがある。

「吃大碗／どんぶり で食べる」

(b) 生活の手段を目的語にとる。「吃劳保／労働保険金をもらって生活する」

(2) 飲む、吸う。「吃药／薬を服用する」

(3) (将棋で相手の駒を)取る。(戦争で敵を)殲滅する。

「吃了敌人一个营／敵の大隊を全滅した」

(4) 吸収する、吸い込む。「这种纸不吃墨水／この手の紙はインクを吸わない」

(5) 消耗する、消費する。「吃力、吃劲」

(6) 耐える、支える。「吃不住、吃不消」

(7) 食い込む、切り込む。「船身吃水一米八／船体の喫水は1.8メートルだ」

(8) 受ける、やられる、くう。「吃过几次败仗／何回か敗戦の憂き目をみた」

(9) だまされる、許す、受け入れる。「我不吃这一套／おれはその手に乗らない」
中国語では「吃」の語義が「食」よりも広いことが分かる。

2. 1. 2 「吃」の語構成力

「吃」には以下のような熟語が挙げられる。

吃醋、吃刀、吃饭、吃喝、吃教、吃紧、吃劲、吃惊、吃苦、吃亏、吃力、吃粮、吃请、吃食、吃水、吃素、吃透、吃香、吃心、吃斋、吃重、吃嘴
好吃、口吃、零吃、难吃、生吃、偷吃、小吃

上記例は「吃」の基本義が生かされている用法のほか、「吃醋／やきもちをやく、嫉妬する」、「吃紧／(軍事・政治情勢・金融市場などが)緊張する」←「紧」の意味がメイン、「吃亏／損をする、ばかをみる」←「亏」の意味がメイン、「吃惊／驚く、びっくりする」←「惊」の意味がメイン、「吃香／歓迎される、受ける、もてる」←口語表現として用いられる、「吃透／すっかり理解する、十分にのみこむ」、「吃力／骨が折れる、苦勞する」などの例のように、派生的な使い方や、語の中心的な意味は「吃」ではなく、他の構成要素にあることが分かる。また、「零吃、小吃」は間食等の意味で、「好吃、难吃」は形容詞として用いられ、「おいしい、おいしくない、まずい」の意味である。

2. 1. 3 「吃」の慣用表現

「吃」には上に挙げた熟語表現のほか、以下のような慣用表現も多数見られる。

吃老本、吃败仗、吃批评、吃官司、吃苦头、吃回扣、吃黄牌、吃刀子、吃枪

子、吃闷棍、吃鸭蛋、吃皇粮、吃救济、吃闲饭、吃白饭、吃独食、吃干醋、吃不消、吃不饱、吃不准、吃不透、吃不开、吃西北风、吃定心丸、吃闭门羹、吃大锅饭

- ・吃老本／自分の経歴・学問・技術などに満足して、それ以上努力しないこと。
- ・吃官司／訴えられる。裁判沙汰になる。
- ・吃后悔药／後悔する。
- ・吃回扣／リベートを受け取る。
- ・吃苦头／つらい目にあう。ひどい目にあう。
- ・吃现成饭／苦勞せずにうまい汁を吸う。何もせずに利益を得る。
- ・吃哑巴亏／損をしても黙っているしかない。泣き寝入りする。
- ・不吃那一套／その手に乗らない。

上の例で分かるように、「吃」の(1)の用法の場合、日本語の「食う」「食べる」に訳せるが、(1)以外の表現については「食う」「食べる」に訳せない表現が多い。「吃闭门羹／門前払いを食う」「吃耳光／びんたを食う」はそれぞれ(1)の用法ではないが、日本語でも同じ「食う」が用いられ、中国語と日本語の表現が一致していることが興味深い。

2. 1. 4 ことわざ・四字熟語

- ・寅吃卯粮／寅の年に卯の年の米を食べる。収入が支出に追いつかず、前借りをして暮らしをつなぐたとえ。
- ・坐吃山空／座して食らえば山も空し。働かずにぶらぶらしていれば、どんなに財産があっても食いつぶしてしまう。
- ・吃软不吃硬／人の性格についていうときに使われ、下手に出られると折れるが、強く出られると反発する。
- ・靠山吃山、靠水吃水／山の近くに住めば山に頼って生活し、水の近くに住めば水に頼って生活する。
- ・吃一堑、长一智／一度つまずけばそれだけ利口になる。
- ・千里做官、为了吃穿／はるばる離れた地で官職につくのも、衣食のため。
- ・一招鲜、吃遍天／策略や奥の手一つで、一生暮らしていける。

四字熟語には「吃」が用いられた表現は「食」よりも少なく、「食」の四字熟語は1. 1で挙げた通りである。ほかに、「食」に関連する四字熟語で以下の例が挙げられる。

风餐露宿（餐风露宿）、尸位素餐、秀色可餐、味同嚼蜡、咬文嚼字、津津有味、

回味无穷、枯燥无味、画饼充饥、狼吞虎咽、囫圇吞枣、如饥似渴

2. 1. 5 マイナス表現（人を貶す言葉）

中国語には「吃」を用いて、人を貶す表現も見られる。

- ・吃货／むだ飯食い、食べることしか知らない、食べることしかしない。
- ・吃白食／ただ食いする、食い逃げする。
- ・吃饱了撑的／食べ過ぎてお腹が張る。転じて、余計なお節介をする。
- ・吃了豹子胆了／「胆」は肝っ玉、度胸の意味。不敵なやつだ。肝っ玉のすわった奴だ！
- ・吃不了兜着走／食べきれないものを包んで帰る。転じて、失敗したら責任を負う。
- ・敬酒不吃吃罚酒／祝杯をいただかずに罰杯をもらう。転じて、下手に折れず、強きに出る。
- ・吃着碗里看着锅里／自分の器の料理を食べながら、お鍋の料理に目をやる。転じて、貪欲なやつ。
- ・吃了枪药了／鉄砲玉を食う。いきり立っていて言動が荒々しい、の意味。
- ・吃里扒外的家伙／裏切り奴め。日本語の「飼い犬に手を咬まれる」に該当するだろう。

字面は「食べる」の意味であっても、実際、比喩的な意味として用いられている表現がほとんどである。また、「狗改不了吃屎」は「犬が糞を食うという悪い習性を直せないことから、転じて、人が悪い習慣等を改めることができない」の意味だが、中国語では「狗」を用いた表現は人を貶したり、罵語であったりするのが多く、「狗」のイメージは甚だ悪いと言っても過言ではない。たとえば：「狗仗人势、狗盗鸡鸣、狗急跳墙、狗拿耗子、狗皮膏药、狗屁不通、狗血喷头、狗彘不若」等の四字熟語が挙げられる。

2. 1. 6 歇后语／馱洒落

- ・吃了秤砣——铁了心（はかりの分銅を食い——決心が固い）
解釈：「鉄」は鉄製と決心を固めた、の両方にかけている。一旦決心すると、気持ちを変えない、のたとえ。
- ・吃刺扎嗓子——自找（とげで喉を刺さり——自業自得）
解釈：トラブルは自分自身が起こしたもので、自業自得。
- ・吃豆腐长大的——腿软（豆腐を食って大きくなった——脚が弱い）

解釈：「腿／脚」と「忒／あまりに」は音が同じで、人があまりにも弱い、のたとえ。

- ・吃挂面不调盐——有盐在先(乾麺を食べるのに塩を入れないのは——塩がすでに入っているから)

解釈：「盐／塩」と「言／言葉」は音が同じで、あらかじめ言っておく、の意。

- ・吃包子光看褶儿——不知里头包的是啥陷儿(肉まんを食べるとき包みのギャザーにばかり注目し——中の具が何であるか分からない)

解釈：物事は表面しか見ず、内部事情が分からない。

- ・吃了不老药——总是这么健旺(不老の薬を飲んだのか——いつも元気旺盛である)

解釈：体が常に健康で、元気はつつしていることを指す。

- ・吃了醉药——走不稳(酔い薬を飲んだのか——千鳥足)

解釈：物事を進める時、左に傾いたり右に傾いたりして、よくへますることのたとえ。

- ・吃笋子剥皮——层层来(タケノコを食べるとき皮を剥く——一枚一枚と)

解釈：物事を進める時、ステップ踏んでやることのたとえ。

駄洒落とは同じあるいは非常に似通った音を持つ言葉をかけて遊ぶ一種の言葉遊びである。中国語の歇后语(駄洒落)は主に前半と後半の二つの部分によって、構成される。その前半部分は提示語や比喻等の内容が多く、後半部分は目的語や説明の内容が多い。

また、歇后语(駄洒落)は主に話しことばによく用いられる。話し言葉で「吃」が広く使われているため、「吃」の入った駄洒落もかなり多い。書き言葉として用いられることが多い1.1で挙げた「食」の四字熟語と対照的である。

2. 2 日本語の「食う」

現代語では、食する意では「食う」がぞんざいで俗語的とされ、一般に「食べる」を用いる。しかし、複合語・慣用句では「食う」が用いられ、「食べる」とは言い換えができないものもある。「たべる」はもともと謙譲・丁寧な言い方であったが、敬意がしだいに失われ通常語となった。以上、『大辞泉』(インターネット版)の解釈による。それでは、「食う」の具体的な用法を見てみよう。

2. 2. 1 「食う」の意味

「食う」の主な意味（『大辞泉』〈インターネット版〉による）：

- (1) 食物をかんでのみ込む。食べる。「飯を食う」
- (2) 生活をする。暮らしを立てる。「こんな薄給では食っていけない」
- (3) 口で物をしっかり捕らえる。食いつく。「えさを替えたら魚がよく食う」
- (4) 虫などがかじって物を傷める。また、虫などがからだを刺す。「蚊に食われる」
- (5) しっかりと間に挟む。また、縄状のものが物にめり込む。「ファスナーに布地が食われる」
- (6) 金銭・時間などがかかる。費やす。「この車はガソリンを食う」
- (7) （「年をくう」の形で）かなりの年齢になる。「いたずらに年を食うばかりだ」
- (8) 他の勢力範囲・領域に入り込む。侵す。「縄張りを食う」
- (9) スポーツなどで、強い相手を負かす。「強敵を食う」
- (10) 演劇・映画などで、ある俳優の演技が勝っていて共演者をしのぐ。「脇役に食われる」
- (11) 他から、ある行為、特に望ましくない行為を受ける。こうむる。「門前払いを食う」
- (12) （「人をくう」の形で）ばかにする。侮る。「人を食った態度」
- (13) 自分の利益のために、だまして人を利用する。食い物にする。
「タレント志望の少女たちを食う芸能プロダクション」
- (14) 演劇で、上演台本の一部を省略する。カットする。
- (15) 口で軽く挟んで物を支える。くわえる。つえばむ。
- (16) かみつく。歯をたてる。
- (17) 薬などを飲む。

一方、「食べる」は以下の意味が挙げられる。

- (1) 食物をかんで、のみこむ。「生で食べる」「ひと口食べてみる」
- (2) 暮らしを立てる。生活する。「なんとか食べていくくらいの蓄えはある」
- (3) ①「食う」「飲む」の謙譲語。いただく。
②「食う」「飲む」を、へりくだる気持ちをこめて丁寧という語。
「食う」の用法が「食べる」より、遙かに多いことが分かる。

2. 2. 2 「食う」に関する慣用表現

- ・煽りを食う／思わぬ災難や影響を受ける。
- ・足止めを食う／移動や外出ができなくなる。
- ・泡を食う／ひどく驚き慌てる。
- ・お預けを食う／期待していた物事の実現が、ある事情により延期される。
- ・お目玉を食う／目上の人からひどく怒られる。
- ・金を食う／多額の金銭を必要とする。
- ・剣突を食う／荒っぽく叱り付けられる。怒鳴られる。
- ・渋を食う／小言を言われる。また、割りに合わない目にあう。
- ・責めを食う／欠点や失敗などを人に責められる。
- ・側杖を食う／自分に直接関係のないことで、思わぬ災難を受ける。
- ・体当たりを食う／相手から、思いきりからだをぶつけられる。
- ・とぼっちりを食う／そばにいたために、思いがけない災いを受ける。
- ・弾みを食う／思いがけなく、他の余勢を受ける。
- ・人を食う／人を人とも思わぬような言動をする。他人をバカにする。
- ・巻き添えを食う／他人の事件などに巻き込まれて、罪や損害を受ける。
- ・利を食う／利息をもたらす。
- ・割を食う／損をする。割に合わない目にあう。
- ・不意を食う／油断したりすきを見せたりして、いきなり何かをされる。急に驚かされる。

以上「～食う」の例であるが、使役動詞「～を食わせる」の用法も見られる。

- ・闇討ちを食わせる／①暗闇に紛れて人を襲う。②不意を突いて人を驚かす。
- ・肩透かしを食わせる／意気込んで向かってくる相手を、正面から受け止めず拍子抜けさせる。
- ・逆振じを食わせる／（相手の非難や抗議に対して）反対にやり込める。

また、「その手は食わない／そのような計略には引つ掛からない」、「気に食わない／自分の気持ちに合わない、気に入らない」、「食いしばる／歯を強くかみ合わせる。我慢する、耐え忍ぶ」、「食うか食われるか／相手を倒すか、倒されるか。死ぬか生きるか」、「食うや食わず／たいへん貧乏で、食事をとるにも困るほどであるという形容」、「食うに困る／生活できない」、「食っていく／暮らしを立てていく」、「食って掛かる／激しい口調で抗議や反論をする」のような使い方もあり、「食う」を用いた慣用表現がかなり多いことが分かる。

2. 2. 3 「食う」に関することわざ

- ・ 旨い物は宵に食え／よいことは躊躇せずにできるだけ早く実行するのがよいということ。／中国語の「趁热打铁」の意味と似ている。
- ・ 大きな魚が小さな魚を食う／力の強い者、権力・金力のある者が弱者を虐げる意。／中国語には「大鱼吃小鱼, 小鱼吃虾米」ということわざがある。
- ・ 同じ釜の飯を食う／親密に生活をともに送るという意。／中国語に訳せば「同吃一锅饭」となる。
- ・ 雁も鳩も食わねば知れぬ／何事も経験がなければ本当の価値は分からないものだということ。／中国語では「疾风知劲草。路不险, 则无以知马之良; 任不重, 则无以知人之材。岁寒知松柏」などのような表現が挙げられる。
- ・ 鯛も平目も食った者が知る／何事も経験のない者には本当のところや核心は分からないというたとえ。／中国語には「实践出真知」のような表現がある。
- ・ 蓼食う虫も好き好き／人によって好みとするものは違っており人さまざまだというたとえ。／中国語では「各有所好」という。
- ・ 毒食わば皿まで／一度悪事に手を出してしまったからには、徹底的にやり通すということ。／中国語に訳せば「恶人做到底」となる。
- ・ 七皿食うて鮫臭い／存分に食べたあとで、まずいとけちをつけることのたとえ。／中国語の「得便宜卖乖」と似ている。
- ・ 鳩が豆鉄砲を食う／突然のことに目を丸くして驚き、きょとんとする様子のこと。／中国語には「目瞪口呆」のような表現がある。
- ・ 夫婦喧嘩は犬も食わぬ／夫婦の間の喧嘩を他人が仲裁するのは愚かであるということ。／中国語の「清官难断家务事」に該当するだろうか。
- ・ 鬼も頼めば人食わぬ／鬼のような非情なものでも頼めばいやだと言えないものだということ。／中国語には「人心都是肉长的」のような表現がある。
- ・ 夢に饅頭を食う／腹の足しにも何の得にもならないことのたとえ。／中国語では似たような表現に「一枕黄粱、黄粱梦、黄粱美梦、毫无用处」などが挙げられる。
- ・ 旨いものを食わず人に油断するな／やたらに好条件の話を持ち込む人には警戒する必要があるという教訓。／中国語には「甜言蜜语、糖衣炮弹」のような表現がある。
- ・ 食わぬ飯が髭に付く／身に覚えのない嫌疑をかけられたり、無実の罪をきせられること。／中国語には「欲加之罪, 何患无辞?」のような表現がある。

・自慢の糞は犬も食わぬ／むやみに自慢ばかりする者は誰も相手にしないということ。／中国語では似たような表現に「王婆卖瓜，自卖自夸」がある。

上記例のほかに、「食う」を用いた複合名詞表現「山桃も選り食い／この早い遅いはあっても帰するところは同じというたとえ」や、「食らう」「食べる」を用いた「人食らい馬にも合口／どんな乱暴者にでも、背くことのできない相手や気の合った者はいるものだというたとえ」、「食べてすぐ寝ると牛になる／食事の後にすぐにごろごろしたり寝たりしてはならないという戒め」、「食べ物の恨みは恐ろしい／食べ物に関して抱かれた恨みは根が深く、後々まで続くということ」等のことわざもある。

2. 2. 4 「食う」の複合動詞

日本語にはさらに、和語動詞の組み合わせによってできる複合動詞があり、「食い〜」の複合動詞には、以下のような語がある。また「〜食う」も2例ほどある。(『複合動詞資料集』による)

食い合う、食い飽きる、食い余す、食い荒らす、食い入る、食い終わる、食い欠く、食い掛ける、食い齧る、食い兼ねる、食い切る、食い切れる、食い込む、食い殺す、食い下がる、食い裂く、食い縛る、食い過ぎる、食い倒す、食い足りる、食い出す、食い違う、食いちぎる、食い散らす、食い付く、食い継ぐ、食い尽くす、食いつなぐ、食い潰す、食い詰める、食い止める、食い慣れる、食い残す、食い延ばす、食いはぐれる、食い始める、食い減らす、食い回る、食い破る、引っ食う、貪り食う

また、「食べ〜」にも以下のような語がある。

食べ過ぎず、食べ付ける、食べ続ける、食べ慣らす、食べ汚す、食べ忘れる

以下の例は「食い〜」の後項動詞と同じ例である。

食べ合う、食い終わる、食べ掛ける、食べ切る、食べ過ぎる、食べ出す、食べ過ぎる、食べ慣れる、食べ残す、食べ始める、貪り食べる

同じ後項動詞の用例の場合、いずれも「食う」と「食べる」の基本義の用法である。

3. 関連表現

3. 1 調理に関する表現

料理の基本要素は食材と調理法である。料理名はこの二つの基本要素から生まれてくることが多い。豊富な食文化を支えるのは、料理の基本要素であ

ると考え、ここでは調理法に関する表現を取り上げる。

中国料理の場合、「煮／煮る、炊く、ゆでる」、「蒸／蒸す、蒸気を通す、ふかす」、「熬／煮る、煮つめる、ゆでる」、「烹／材料を油でさっと炒めてから調味料を加え、手早くかき混ぜて皿に盛る」、「煎／焼く、いためる」、「炸／油で揚げる」、「烤／あぶる、焼く」、「烙／焼く」、「熘／油でいためてからくずあんをかける」、「煨／とろ火で煮込む」、「炖／（とろ火で）煮込む、煮詰める。肉料理についていうことが多い」、「烩／あんかけ」、「炒／いためる、いる」、「煸／下ごしらえで、野菜や肉などを短時間にいためる」、「焖／ぴったりとふたをしてとろ火で煮込む」、「涮／薄く切った肉を熱湯にくぐらせて、調味料をつけて食べる」、「卤／（1）塩水に調味料を加えて煮たり、しょう油で煮しめたもの。（2）肉やきのこで作ったスープにくず粉を加えた濃厚なかけ汁」、「炆／材料を油でさっと炒めてから調味料と水を加えて煮る」などの調理法が挙げられる。

中国料理は火を使うのが基本なので、「火」偏の漢字が多く、また、「れんが」偏の漢字も比較的多いことが分かる。火を通さない料理法にはサラダや、漬け物などに使う調理法が挙げられる。「醬／みそまたはしょう油漬けの（野菜）。しょう油で煮込んだ（肉）」、「泡／漬ける（泡菜／中国式ピクルス）」、「腌／塩漬けにする」、「拌／かき混ぜる、混ぜ合わす（拌菜／あえ物）」、「糟／かす漬け」などはそれである。

このような調理法から中国の八大菜系「魯菜、川菜、湘菜、粵菜、閩菜、蘇菜、浙菜、徽菜」が生まれたのだろう。上記八大菜系とは「山東料理、四川料理、湖南料理、広東料理、福建料理、江蘇料理、浙江料理、安徽料理」のことである。

上に挙げた中国語の料理動詞ではほぼ該当する日本語料理動詞が分かるが、日本語の調理法表現には「揚げる、焼く、あぶる、煎る、炒める、煎じる、蒸す、ふかす、ゆでる、煮る、炊く、あえる、漬ける、おろす、まぶす」等が挙げられる。このうち、「まぶす」は中国語では「撒、塗、抹」という。また、調理技術として、「灰汁抜き、三枚下ろし、塩揉み、下拵え、湯通し」などの表現が挙げられる。以上挙げた調理法からも中国人や日本人が「食」に対するこだわりを伺い知ることができる。

3. 2 味覚に関する表現

人間の感覚機能を昔から視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚と分類している。

この五つの感覚器官は相互につながっているため、共感覚という心理過程は自然に人間の言語の中に反映する。2.1.4で挙げた「秀色可餐／（女性や景色が）美しくてうっとりさせられる」はまさに視覚から味覚への共感覚表現としてとらえることができよう。

料理や食べ物についてはやはり、五感はいずれも関係する。冒頭で挙げた「日本料理は目で楽しむ料理、中国料理は口で味わう料理」はそれぞれの料理の特徴、視覚重視か味覚重視かということが分かる。

味覚は甘味、酸味、塩味、苦味、うま味の5つが基本味に位置づけられる。味覚に関する表現には「甜／甘い」、「酸／酸っぱい」、「苦／苦い」、「辣／辛い」、「咸／塩辛い、しょっぱい」、「淡／（味が）薄い、塩けが少ない、水っぽい」、「涩／渋い」、「腥／（魚などが）生臭い」、「香／（1）（匂）芳しい、よいにおいがする。（2）（食べ物の）味がよい、美味である」等が挙げられる。また、嗅覚を表す表現として「臭／臭い」があるが、味覚で挙げている「香」や「腥」もそうである。さらに触覚表現として、日本語の「喉ごし」「口当たり」等が挙げられる。「口当たり」は中国語で「口感」等となるが、「喉ごし」は一語ではまとまらない表現になる。

3. 3 擬音語・擬態語

日本語は擬音語・擬態語が非常に豊富な言語であり、人の行動、感情を表わしたり、人間関係や物の様子や音を表わしたり、また、物を食べたり飲んだりするときのことを表わしたりするので、擬音語・擬態語自体が一つの意味をなす。「お腹が空いた」の意味で「ぺこぺこ」と使ったり、お腹が「ぐうぐう」鳴っていると使ったりする。また、物を食べたり、飲んだりするときの様子や音を表わすのに、以下のような擬音語・擬態語が挙げられる。

- ・たくさん、そしてよく食べる様子を表す「ががつが」「もりもり」／中国語では「大口大口地吃、狼吞虎咽」のような表現が該当するであろう。
- ・御茶やビールなどを音を立てて勢いよく飲む音や様子を表す「ごくごく」「がぶがぶ」／中国語では「咕咚咕咚地喝」という。
- ・お茶漬などを食べる時の音や様子を表す「さらさら」「ざらざら」／中国語では「呼噜呼噜」という。
- ・お蕎麦などを食べる時の音を表す。「ずるずる」「つるつる」／中国語では「哧溜哧溜」という。
- ・湯気などが立ち上がって美味しそうな料理の様子を表す「ほかほか」「ほや

ほや」／中国語では「热乎乎」という。

4. 終わりに

中国も日本も食文化が非常に発達しており、こうして改めて「食」に関する諸表現を見てみると、その豊富さに驚くばかりである。語の基本義用法、派生義用法や慣用表現、そしてことわざなどさまざまな表現が見られる。

日本は昔から東京は「履き倒れ」、京都は「着倒れ」、そして大阪は「食い倒れ」と言われている。大辞泉によれば、「食い倒れ」とは「飲食にぜいたくをして、財産をなくすこと」の意味。一方、中国では「穿在上海、吃在广州」といい、日本語に合わせれば「上海人は着倒れ、広州人は食い倒れ」となるが、「吃在广州」日本語では一般に「食は広州にあり」と訳している。また、三つの「州 zhōu」の韻を踏んで、「吃在广州、住在苏州、死在柳州／食べるなら広州、住むなら蘇州、死ぬなら柳州（蘇州は風光明媚な町。柳州の木材が非常にいいと言われている。いい棺ができるという期待からでしょうか）」という言い方もある。

現代社会において、食事は単に胃袋を満たすだけでなく、食を楽しむ時代であり、料理も国を超え、国境を越えている。創作料理や無国籍料理も次々に生まれ、この新しい食文化の時代において、きっと新たな「食表現」が生まれてくるのであろう。

参考文献及び辞書：

1. 『常用构词词典』傅兴岭・陈章焕主编 中国人民大学出版社
2. 『倒序现代汉语词典』中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 商务印书馆
3. 『中国歇后语大词典』上海辞书出版社
4. 『歇后语四千条』孙志平・王示均编 上海文艺出版社
5. 『汉语成语小词典』商务印书馆
6. 『汉大成语大词典』精编本 汉语大词典编纂处 汉语大词典出版社
7. 『汉语与汉文化』郑卓睿著 汕头大学出版社
8. 『分類語彙表』増補改訂版 国立国語研究所編 大日本図書
9. 『日中・中日辞書引き』Chinese Writer 6
10. 『用例でわかる慣用句辞典』学研辞典編集部編 Gakken
11. 『岩波ことわざ辞典』時田昌瑞著 岩波書店
12. 『擬音語・擬態語使い分け帳』山口仲美・佐藤有紀著 山海堂

13. 『複合動詞資料集』 研究代表者：野村雅昭 文部省科学研究費助成金 特定研究（1）
14. 『大辞泉』（インターネット版）
15. 『知っておきたい日本語コロケーション辞典』 金田一秀穂監修 Gakken
16. 『漢字引き・逆引き大辞林』 三省堂編集所編 三省堂
17. 『中国語擬音語辞典』 野口宗親編著 東方書店

LIN Cuifang

（高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門准教授）